

★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★

2025年4月26日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 初めの話

二週間前の土曜日にあった【動画による祈りの会】で真妃先生は、{消えてゆく姿としての我々}を客観的に自覚できるように、“私たち自身が未だ手放していない様々な自分の姿”を具体的に思い起こさせてくださり、そこに「即神也」という言葉を付け『我即神也の印』を組むことで、私たちが日頃認識している自我を本心・本体に溶け込ませ、昇華するためのワークを行なってくださいました。

そしてそのあとに、「人間とは肉体ではなく、神の分霊である」という真理を思い出し、ご自身を見つめ直し、神聖の意識で生きるきっかけにしていただきたかった」というお気持ちをもって、五井先生のご著書【永遠のいのち】のなかから、『汝自身を知れ』という章を抜粋して読んでくださいました。

また朗読のあとに、真妃先生はこうもおっしゃいました。「私は、“自分とは何者なんだ?”という問いを自らに発してゆく中で出てくる想いと、五井先生が“知識として知っているだけでは駄目なんだよ。本当にそれを体得して、行じてゆけるようになることが宗教なんだよ”とおっしゃるところを繋げられるのではないだろうかと考え、今日は皆様方に先ほどのような問いかけを試してみたいです」と。

そしてその際に、「今日、皆様方に読ませていただいたこの【永遠の命】というご著書の『汝自身を知れ』の章を、皆様方にもぜひ改めて読んでいただき、ご自身で「私は何者なのか?」という問いを自らに発し、その問いに対する皆様ご自身の答えと、五井先生のおっしゃる真理の在り方が繋がってゆくような"素敵なお時間"を過ごしてください」ともお話してくださいました。

それで私は、一週間くらいしてから数人の方に、「【動画による祈りの会】の後に、五井先生のご著書【永遠のいのち】の『汝自身を知れ』の章を読んで、ご自身の神聖自覚を深め、それを何か、言葉・想念・行為に落とし

込んで実践する取り組みに繋げるようなアイデアを得られましたか？」と尋ねてみました。

そうしましたところ、その章を読み返された方はいらっしゃいましたが、実践に繋げるような読み方をされた方はおられませんでした。そこで今回は、この『汝自身を知れ』という章を『神聖で繋がり合う日』で取り上げ、日常生活での実践に繋がれたらと思いました。

すでにご自身でそのお話を読まれ、神聖深化の取り組みを行なわれている方は、その添付ファイルは無視していただいてかまいません。

まだ読まれていない方やそのご著書をお持ちでない方、読みたいけれども本の文字が小さすぎて読めないと思われる方は、このメールに『汝自身を知れ』の章全体をPDFファイルにした添付ファイルを付けておりますので、土曜日の夜までの間にお読みいただき、ご自身の日常生活における神聖自覚の実践に繋がる箇所を見つけ、そこから日々の取り組みに取り入れてみてください。

(※PDFファイルの文字をこれまでより大きくしていますが、スマホで読まれる方はPDFファイルを開いて横向きにしてごらんいただくと、さらに大きな文字になって読みやすくなります。※基本文字サイズを12pt → 16ptにしています)

今回のプログラムは、土曜日の夜までの間に、『汝自身を知れ』のご講話を何度も読み、ご自身の日々における取り組みのアイデアをいただいて、それを実践に取り入れるところまでが7割で、土曜日の夜の会の割合は3割になります。

また、今度の土曜日夜の『神聖で繋がり合う日』は、『汝自身を知れ』というご講話に関連して、『動画による祈りの会』の復習をする勉強会の日にいたします。

20:55 スタート

★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★

【始めのお話】

齊藤：皆さま、こんばんは。土曜日夜の『神聖で繋がり合う日』のプログラムを始めます。

本日は、五井先生の【永遠のいのち】というご著書の最初の章にある『汝自身を知れ』というご講話に倣って、遠い過去から永遠の未来に至るまでを貫き、光り輝いている生命(いのち)の光そのものの本当の我である神我と、私たち自身の常日頃における意識の持ち方の実態とを、丸ごと大きく包み込んで、把われのない心で俯瞰する意識を定着させるプログラムを行なってまいります。

「自分って何者なんだろう？」「どうして自分はこの世に生まれてきたんだろう？」「いのちって、何処から来て何処へ帰ってくんだろう？」「なんで自分はここにいるんだろう？」「どうやって生きていったらいいんだろう？」

私は宗教心もない小学生の頃から、そうした自らに対する根源的なというか、哲学的な問いかけをしてきました。どうして子ども時代にそんなことを考えていたのかと申しますと、7歳の冬に、住んでいた星が爆発して星屑になり果てて、宇宙空間に放り出された意識状態で、すべてが無くなり途方に暮れている夢を見たことがきっかけでした。それは、地球や金星時代よりも前の過去世の記憶で、その星の残骸は、火星と木星の間にある小惑星帯として今も残っています。

その後、13歳から内面の探求を始め、その答えを本に求めて、本屋さん通いをしていました。一番初めは、心理学の本を読みあさりしました。そこには答えがないと思い、精神世界と呼ばれる分野の様々な本を読みました。そのうちに、アダムスキーなどの空飛ぶ円盤や宇宙人の本を読むようにもなりました。それでも私の心は、それらの本に胡散臭さを感じて、満足することができませんでした。

15歳になった昭和55年の初夏に、隣町の本屋さんで、村田正雄さんが書かれた『空飛ぶ円盤と超科学』を見つけ読みました。そこには、村田さんと金星の方々との詳細なやり取りが記録されていました。とりわけ、円盤の機長婦人のお言葉は、私の胸に強く深く突き刺さりしました。

機長婦人やMさん、月の基地の司令など、何人もの宇宙人の方々が村田さんにいろいろなことをお話になっていましたが、特に私の心を捉えたのは、「世界平和の祈り」は、地球を救済するために大神さまが許された唯一の手段です。その波動の中でこそ、私たち宇宙人は、あなた方とともに地球平和のために働くことが出来るのです。輝かしい地球の未来は、世界平和の祈り

の中から開かれゆくものであることを、くれぐれも心に銘記してください」というような機長夫人のお話でした。

当時、地球の未来に悲観的な雰囲気を感じていた私は、「7歳の時の夢のように、この星を滅ぼしてはいけない」と、何とは無しに感じていたため、機長さんのお言葉が地球の未来をよくするための救いの言葉に感じられて、次の日からの学校の行き帰りに、一人で歩いているときなどに、「世界人類が平和でありますように」「日本が平和でありますように」と、世界平和の祈りを祈りながら歩く日々が始まりました。

その頃は、白光の存在も知らず、五井先生がまだこの世にいらっしゃったこともわからないままに、「機長婦人が、“世界平和の祈りがいい”とおっしゃっていたのだからやろう」という気持ちでお祈りしていました。

最初にお話した「自分が何者であるか？」の問いへの私自身の答えは、そのような経験を経た後、何十年も掛けて「地球が平和な星になってほしいと願う受け身の存在」から「地球に能動的に平和をもたらす存在」「地球に平和をもたらすために生まれてきた者」へと変わってゆきました。

皆様にも、「自分が何者であるか？」のそれぞれのお答えがあると思います。本日は、そのおひとりおひとりのお答えを大切に温め、自我の殻を割り、根源の答えである我即神也、我即地球也、我即宇宙也の意識を、ご一緒に表面意識に定着させてまいりたいと思います。

地球人類すべてが私たちと同様に、『神聖自覚』に目覚めるそのときを、この現実世界に展開する鍵は、私たちひとりひとりの意識の進化にかかっております。この場合の「進化」という漢字は、進み化けると書く「進化」でもあり、深く化けると書く「深化」でもあり、神に化けると書く「神化」でもあります。

地球人類すべてに先駆けて、世界平和を24時間祈っている私たちがまず、自らの神聖を表面意識に完全に甦らせ、何を見ても聞いても体験しても、いつでも神聖の立ち位置からこの世とあの世のすべてを俯瞰できる私たちであるために、私達がこれまでに学んできた知識としての真理を、体と心のすべてから溢れ出る真理にまで高めあげてまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

それでは時間になりましたので、初めに世界平和の祈りを日本語と英語で行います。

★♥☆♠★♥☆♠★♥☆♠★♥☆♠★♥☆♠★♥☆♠★♥☆♠

1. 世界平和の祈り

齊藤：それでは始めます。

世界人類が平和でありますように。

日本が平和でありますように。

私たちの天命が完うされますように。

守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.

May peace be in our homes and countries.

May our missions be accomplished.

We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.

★♥☆♠★♥☆♠★♥☆♠★♥☆♠★♥☆♠★

2. 日常における神聖自覚の取り組みについて

齊藤：はい、ありがとうございました。

本日も動画による祈りの会がありました。二週間前の動画による祈りの会で真妃先生は、『私たちの肉体としての習慣の想いである“普段の自己認識”を言葉に表わし再確認をして、そのあり方に“即神也”を付け、“我即神也の印”を組んで本心に昇華するワーク』と、五井先生のご講話の『汝自身を知れ』を抜粋しながら読むことをとおして、私たちひとりひとりが真実の自己、神聖意識、神我を体得する道を共有していただきました。

それで、一週間くらい経ってから何人かの方に、4月12日(土)の動画による祈りの会における特別プログラムで、真妃先生があのようなプログラムを企画された意図をどうお考えになっているのかを尋ねてみました。また同時に、普段考えている“自分という存在”を、“いのちそのものである本心”に融けこませられたという実感を持たれたかどうかを尋ねてみました。

そうしましたところ、「真妃先生の意図はわからなかった」「普段の自分と本心の真我を溶け込ませる実感も持てなかった」という答えが半分くらいの方から返ってきました。そこで私は、「せっかく日常の意識を神意識に昇華する特別プログラムが行なわれたのに、“ついていけない”と実感される方がいらっしゃるのはいないなあ」と考えました。

それで、「あなたは何者ですか？」の問いを改めて振り返り、どんな自分も消えてゆく姿と見て、本心の中に溶け込み、批判・非難・評価をせずに、抱きしめる意識を甦らせるために、五井先生の『汝自身を知れ』のご講話を、真

理の実践に繋げる読み方を行なうことをとおして、実際に日々の生活に落とし込む方法の一端を紹介する場を設けてはどうだろうかと考え、今回のプログラムになりました。

メールにも書きましたが、今回のプログラムは、水曜日に今日の案内メールを受け取って、五井先生の『汝自身を知れ』のご講話を何度も読み、その中から日々の実践に使えるアイデアをいただき、実際に行なうことが7割で、今日のこの時間が3割の配分になっております。

『神聖自覚』の取り組みをそれぞれに行なわれていると思いますが、皆様、ここで今一度、「自分は何者だろうか？」と、改めてご自身に問いかけてみてください。そして、ご自身が思う自分を言語化してみてください。言葉に表わして見つめ直すことで、私達は自分を客観的に観ることが出来ます。幾つもの自分を思い浮かべられてもいいですし、一つだけ思われても結構です。今から一分間、時間を取りますので、ご自身でご自分をどう思われているか、どのように評価されているのかを、言葉に表わし出してみてください。

<※1分間、時間を取る>

今、おひとりおひとりがそれぞれの答えを思い浮かべられていると思います。今日は、言葉に表わし自覚された自分に“即神也”を付けて、我即神也の印を組むことはいたしません。その代わりに、こう试试看てください。「私が私だと思っていた○○である私は、ほんとうの私ではなかったんだなあ」

いくつか例を挙げて、その後にもた少し時間を取りますので、その間に、○○の部分に言語化して自覚したご自身の姿を入れてみてください。

「私が私だと思っていた妻がいなければ何も出来ない私は、本当の私ではなかったんだなあ」

「私が私だと思っていた社会的肩書きの私は、本当の私ではなかったんだなあ」

「私が私だと思っていた短気な私は、本当の私ではなかったんだなあ」

「私が私だと思っていた好き嫌いがハッキリとした私は、本当の私ではなかったんだなあ」

「私が私だと思っていた優柔不断な私は、本当の私ではなかったんだなあ」

「私が私だと思っていたこの体でこの名前を持った私は、本当の私ではな

ったんだなあ」

「私が私だと思っていた神と一体になりたいと願ってきた私は、本当の私ではなかったんだなあ」

< ※ 1 分間、時間を取る >

はい、ありがとうございます。日常生活の中で今のように、「私が私だと思っていた何々な私は、本当の私ではなかったんだなあ」という独り言を繰り返して唱えておりますと、守護霊様が、本当の自分が何者であるのかを、直観や閃きをとおして、言葉で教えてくださいます。

先ほど、例として挙げた七つの言葉の最後に、「私が私だと思っていた神と一体になりたいと願ってきた私は、本当の私ではなかったんだなあ」と言いました。一見すると、「それは本心からの願いじゃないの？」と思えます。

しかし、「神我一体になりたい」という想いを心の奥底に鎮めて、ジーンと感じてゆきますと、「そのような想いは、本当の自分じゃあないんだよ。本当の自分というのは、元々いのちの響きそのものであり、初めから神の光そのものであって、これからそうなるようにするものではないんだよ」と、心の奥から守護霊・守護神・本心としての私、神聖の私がやさしく肉体の私に教えてくださいます。

ここで、【永遠のいのち】というご著書の『汝自身を知れ』のご講話の要約をお伝えします。

「人間という者は、肉体そのものが自分ではないのだ。本当の人間ってのは、“いのち”そのものなんだ。そういう真実の人間観を思い出して、心と体で体得するためには、これまでに何生も掛けて積み重ねてきた“肉体こそが人間なんだ”と記憶しているすべての想念を捨てること、無くすことだ。空になることだ。無為にして為すことだ。そうは言っても難しいでしょ。だから、すべての想いを“消えてゆく姿”という救いの言葉に乗せて、世界平和の祈りをすればいいと言うのです。そうすれば、いいことにも悪いことにも把われないで、一つの形に凝り固まらないで、そのまますべてが消えていって、大神様のいのちに直結した本心・本体の意識が表面に表われてくるんだよ」あの文章の全体像としては、今のようなお話が書かれていました。

地球を完全平和な星に仕立て上げてゆくために、集団の祈りの場が大切であることは、昔から言われております。ですから、私たちがこうして朝に夕に集まり、心をつなげてお祈りをつづけていることは、確かに世界平和のためにも、人類の神聖復活のためにも、自然界の再生のためにも、とても大き

な働きをしていることは疑いようもない事実です。

Zoom 祈りの会を立ち上げてくださった中澤神をはじめ、私たちの祈りの会の最中には、救世の大光明の神々様や宇宙人の方々がお力添えくださっています。しかしそれは、世界全体を大調和の方向に導く大いなる働きそのものではありませんが、私たちの常日頃の意識を、常住坐臥の神意識に至らしめる直接の働きかけではありません。

間接的には助けになっておりますが、私たちの普段の意識を、完全に神聖を自覚した神意識に導くのは、一秒一秒、一瞬一瞬、絶え間なく光明思想に徹底した日常の私たち自身の言葉であり、想念であり、行為であります。「今を真剣に生きるのだ」という宣言の言葉の具体的な実践です。

すべての瞬間に、絶え間なく神意識が持続している段階に意識進化するまでは、私の体験上、ある一定の期間、光の言、真理の言、神聖の言を一日中、唱えつづけに唱えつづけて、脳の中のシナプスの繋がりを、“業生の繋がり”から“神聖の繋がり”に、繋ぎ換える期間を持つことが効果的です。

何かのご著書に書いてありましたが、五井先生が神我一体になる直前の頃、昭和 23 年か 24 年の頃、“想念停止の修業”という、神我一体の仕上げの修業の際に、「それは何も想ってはいけないという修業だったけれど、守護神は“神様、ありがとうございます”という言葉だけは許してくださった。だから私はこれ幸いと、“神様、ありがとうございます”という言葉だけを唱えつづけに唱えたんだよ」というお話がありました。

2025 年を生きる私たちも現在、ひとりひとりが神我一体の初心者コースの境地に至る仕上げの段階に入っております。ですから私たちは、「守護霊様、ありがとうございます。守護霊様、ありがとうございます。守護霊様、ありがとうございます。守護霊様、ありがとうございます」と四六時中唱えつづけてたり、暇があれば「我即神也、斉藤雅晴即神也。我即神也、斉藤雅晴即神也」と唱えつづけてたり、「世界人類が平和でありますように。世界人類が平和でありますように」と間断なく唱えつづけてたり、「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就。すべては完璧、欠けたるものなし、大成就。すべては完璧、欠けたるものなし、大成就。すべては完璧、欠けたるものなし、大成就」と唱えながら歩くなどの仕上げの努力をして、「肉体こそが人間だ」と思い込んできた記憶のすべてを、神聖の意識で 100% 上書き保存する段階を生きているのだと思っております。

勉強会に参加されている方々には、2023 年の 9 月からこうしたお話をお伝えしておりますが、守護霊様と一体化したご自分なりのやり方で、実際に何人

もの方が、神意識当り前の悟りの心境に入っておられます。

世界が平和になる、地球が大調和した星になるということは、地球に住む私たちひとりひとりが、神意識を当然の意識として生きている世界になるということです。遅かれ早かれ誰もが悟りを開き、神我一体の心境を体得する必要があるということになります。

世界平和を祈れる人たち、神聖復活の印を組むことが出来る人たちは、その最前線を生きておりますから、守護霊・守護神はもとより、たくさんの神々や宇宙人の方々が私達の心境の変化を逐次つぶさに観察をして、必要に応じて意識進化を後押しする光を送ってくださり、私たちの心の中で共に働きくださっています。

ですから、私達に出来ないことはないと断言出来ます。「こうなりたい」「どうしたい」「こうしたい」という私たちの神聖に繋がる希望は、光明思想をベースにした果因説の意識を持って、今この瞬間を真剣に生きることで、すべてが現実化します。

五井先生がつくられたお歌の中の“心ころころ”でしたか、「智慧が、力が湧いてくる」とありますが、本当に湧いてくるんです。守護霊様との一体化の度合いが強くなり、深まってまいりますと、私たちは今までの業生の私たちではなくなってきました。普通の考えのように、守護霊様からの閃きや直観が湧いてきて、その通りに動きますと、望む現実が面白いように自らの身の上に展開してまいります。

そのためにも私たちは、消えてゆく姿で世界平和の祈りを根底において、いいとか悪いとか、好きだとか嫌いだとかいう想いを守護霊様にすべてお渡しして、ひたすらに神聖復活の印を組みつづけてまいりたいと思います。

でも、決してご無理はなさないでください。特にご高齢の方は、お体をいたわって、大事にして、「やらなければいけない」と思ってもけっしてご無理なさらず、それは心の中、意識の中だけで行なうようにして、体力に余裕があるときにだけ、お体を使って行なってください。

ご高齢になってまいりますと、ご著書を読むこと一つ取っても、字が小さすぎてストレスを感じたり、すぐに疲れを感じたり、思いどおりに行かないことが多いと伺っております。

でも 2025 年の私たちは、自分の心の内側で守護霊様の手をしっかりと握って、神々や宇宙人の方々と繋がり合いながら生きてまいりますと、ご著書から得られるような心の栄養になる叡智や智慧を、閃きをとおして心の奥から教

えていただけますので、「今まで出来ていたことが出来なくなってきた」と思われる方がもしいらっしゃいましたら、けっして悲観なさらずに、神愛と希望と勇気をもって、本心・本体、守護霊・守護神様との繋がり合いを大切にしてお過ごしくださいますようお願いいたします。

★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★

3. 人類神聖復活の祈り

斉藤：それでは最後に、神聖復活の印を、心を込めて1回だけ組みます。印を組んだ後に、その印をとおしていただいた光を私たち自身に浸透させて、神聖の光を肉体と心に染み渡らせる時間を設けますので、印を組み終わりましたら、そのまま目を閉じてお祈りください。

The Divinity of Earth Humanity has reawakened. Dai-jouju.

地球人類の神聖復活、大成就。

地球人類の神聖復活、大成就。

<神聖復活の印を1回>

<そのまま目を閉じて14秒瞑想する>

以上